

## 2019年3月期 第2四半期決算 電話説明会 質疑応答

実施日：2018年10月30日（火） 当社説明者：執行役員 経理・IR担当 霜田 朝之 IRグループマネージャー 浅井 一（司会）
---

以下は、決算電話説明会における主な質疑応答を取りまとめたものです。

- Q1) テーマパーク事業の諸経費が対前年で増加している要因について、内訳を説明してほしい。
- A1) 諸経費は全体で26億円増加しており、そのうち大きなものは東京ディズニーリゾート35周年イベント関連費用の増で16億円、ポータルアプリ関連の費用を含むシステム関連費用の増が5億円となっている。その他には、エネルギー費や販促活動費、オフィス環境改善関連費用などが増加している。
- Q2) 東京ディズニーリゾート30周年イベントの時と比較すると国内ゲストが減少していると思うが、要因をどのように捉えているのか。
- A2) 今上半期は猛暑の影響もあり30周年時と比較すれば国内ゲストが減少したものの、依然高い水準で推移している。すでに発表した上半期の入園者数も過去最高となっていることから、ここまでは順調に集客できているものと考えている。
- Q3) 今年6月に発表した東京ディズニーシーの拡張について、その投資効果は、いつ、どのくらいの規模で発生するのか。
- A3) 拡張エリアの開業は2022年度を予定しており、投資効果としては年間の売上高を500億円レベル押し上げるものと考えている。
- Q4) パークの体験価値が高まる大規模投資を複数発表しているが、チケット価格改定の考え方に変化はあるのか。時期や価格変動制導入の可能性などを踏まえ、現在の価格戦略の考え方を教えて欲しい。
- A4) チケット価格の考え方については、従前からの説明に変更はない。現時点で決定していることはないものの、ご指摘いただいた価格変動制を含め、様々な検討をおこなっている。
- Q5) ポータルアプリや電子マネーの導入によって、どのような効果を期待しているのか。
- A5) アプリ導入の主目的はゲストの利便性を向上することであり、今後も機能の追加を検討している。また、11月5日より導入する電子マネーでの決済機能では、レジでのトランザクションを簡素化し、待ち時間の削減を図ることで、より快適なパーク体験を実現したいと考えている。

以上